

## 後志自動車道開通

余市医師会  
林病院

林 和秀

平成30年12月8日、待ちに待った後志自動車道(余市一小樽間約23km)が開通した。昭和46年に道央道が北広島一千歳間で開通し、昭和48年に札幌自動車道が札幌西一小樽間で開通してから実に半世紀近い年月が経過していた。この間に、道央道を中心に道東道や日高道がどんどん延伸し、ずいぶん便利になっているようだが、小樽から先の後志は残念ながら取り残された状態であった。

その風向きが少し変わったのは、ニセコ・倶知安を中心としたスキーリゾートが世界的な脚光を浴び、外国人観光客が著しく増加したのも一因かもしれない。地元では当たり前であったパウダースノー、泉質の良い温泉、羊蹄山の絶景など、地元の私でさえ必ず年に1回以上は訪れてしまうわけであるから、外から来た人は相当感動するのだろう。私が小学生の頃には、関西の人が大勢ニセコにスキーに来ていた。関西弁がゲレンデで飛び交っていたのを今でも記憶している。その後、スキーブームも徐々に下火になりニセコのスキー場もまさに冬の時代に突入した。しかし、そんな状況を救ったのが、オーストラリア人である。今では、ニセコのスキー場を訪れると外国人の方が多いため、外国のスキー場に来た気分になる。

またもう一つの要因は、泊村にある原発の存在であろう。避難路としての高規格道路の重要性は震災で実証されているようであり、そのような事情で整備が進んだとも考えている。

さて、以上のような背景があり、後志道の倶知安までの延伸も決まり工事が進められている。後志にはもちろんニセコ・倶知安だけでなく、わが町余市町にはニッカウヰスキーがあり、日本有数のワインブドウの産地であり、ワイナリーも数多くできつつある。その他、後志管内の町村も多くの海産物や農産物に恵まれており、このような中、物流の要である後志道の完成はこの地域に多大な繁栄をもたらしてくれるものと期待している。

## ワカサギ釣りに魅せられて

岩見沢市医師会  
竹内医院

竹内 文英

湖の氷に穴を開けて釣る穴釣りは、北海道の冬の風物詩である。子供連れで楽しむなど広く愛されており、気軽にできる釣りだ。が、実は非常に奥が深い。

網走湖は汽水湖であるため、その魚体は12cmほどと大きく、食いが良いため芋づる式に釣れるが、ほかの湖のワカサギは魚体が小さく(5~8cmほど)なかなか釣れない。張り切って行ったものの1日頑張っても数匹しか釣れなかったという話も聞く。意外と釣れないものである。

ワカサギのアタリについて多くの人が勘違いをしていることがある。秋鮭、ブリなどの大きな魚が針を咥えたときのアタリと違い、ワカサギの場合、竿先はほとんど動かないのである。

魚体の小さなワカサギは非常に神経質であり、エサを咥えても違和感があるとすぐに吐き出してしまふ。たまに吐き出すときに間違っって口に針が引っかかり、ワカサギが暴れて竿先が大きく動く。初心者は、これをアタリと勘違いしているのである。

エサを咥えたときのアタリは非常に繊細で、竿先が0.5mm~1mm程度の動きだったり、糸が数mm揺れたり非常に細かい動きである。この繊細なアタリが判ってくると数百~千匹と釣れてくる。大物釣りも魅力的だが、ワカサギの繊細なアタリに魅了されているマニアも多い。

穴釣りのシーズンは1月~2月の短い間である。地球温暖化のためか5年くらい前から氷がなかなか張らなくなり、解禁日が遅くなってきている。私は砂川のオアシスパークに行くのだが、今年の解禁日は1月17日だった。この先さらに遅くなるのではないかと危惧している。

